

### 39. MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の消毒方法

MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）は院内感染の起因菌として注目され、術後患者、免疫不全患者、高齢者から高頻度に検出される。若い抵抗力のある人では害はほとんどないが、幼児、高齢者、抵抗力の弱った人等がいったん感染すると治癒が困難で死亡例も報告されている。したがって予防対策としては、易感染者と保菌者の接触を断つこと、医療関係者を通しての感染を防ぐこと、および通常の掃除（掃き掃除は不適）を徹底して必要に応じて殺菌消毒を行うことが重要である。

MRSAの消毒は原則として一般的細菌消毒に準じて行えばよい。注意点としては、可能であれば予備洗いをを行い、有機物による消毒薬の効果減弱を防ぎ、より効果を発揮できるようにする。またMRSAの消毒薬への耐性化を防止するため、手指消毒と器具消毒には異なった消毒薬を用い、何種類かの薬剤をローテーションして使用する。

#### 〔手指消毒〕

手洗いの重要性を認識し、下記のいずれかの方法で、1処置1手洗いを励行する。ベースン方式は交差汚染の可能性もあるので使用しない。分泌物（痰や鼻汁、膿等）に触ったり、血液や膿等の有機物が付着している場合には予備洗い（水洗い→石けん洗い→十分な水洗い）をする。

#### ① 速乾性消毒薬を1分間擦り込む。

例) ウエルパス® (0.2%塩化ベンザルコニウム添加83%エタノール)

イソジンパーム® (0.5%ポビドンヨード添加83%エタノール)

ヒビスコールA® (0.2%グルコン酸クロルヘキシジン添加83%エタノール)

#### ② 消毒薬でもみ洗い後、よく泡立て水洗いし、乾燥にはエアータオルあるいはデイスポーザブルの紙（滅菌紙タオル）を使用する。

例) ヒビスクラブ® (4%グルコン酸クロルヘキシジン)

手術用イソジン®液 (7.5%ポビドンヨード)

#### 〔鼻腔・咽頭の消毒〕

患者や医療関係者または介護者の保菌者では鼻腔や咽頭からMRSAを検出することが多い。消毒には、ポビドンヨード製剤（イソジンゲル®）の1日2回鼻腔内塗布、イソジンガーグルによる1日3～4回含嗽が有効である。

また消毒薬ではないが、抗菌薬ムピロシン（バクトロバン®鼻腔内軟膏）の鼻腔内塗布による除菌も行われている。この薬剤はイソジンとの併用はしない。

〔器具の消毒〕器具はなるべくデイスポーザブルを使用する。

|                     |  |
|---------------------|--|
| 使用済み注射器など           | 容器に入れてオートクレーブ滅菌処理後、廃棄。   |
| 汚染した器具<br>(再使用するもの) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォッシュャーステリライザー処理（最も効果的）。</li> <li>・0.5%グルコン酸クロルヘキシジン・エタノールまたは0.1%塩化ベンザルコニウム・エタノールに浸漬。</li> <li>・(内視鏡等) 水洗後0.5～2%グルタラルに10～30分浸漬、水洗後、消毒用エタノールで清拭。</li> <li>・(体温計、聴診器) 消毒用エタノールで清拭。</li> <li>・(ガラス容器) 0.02%次亜塩素酸ナトリウムに30分浸漬。</li> </ul> |

|                   |   |
|-------------------|---|
| ネブライザー            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(超音波) 0.01%次亜塩素酸ナトリウムに1時間浸漬。</li> <li>・(ジェット式) 温水(70℃)に3分以上浸漬。</li> </ul> |
| 気管内吸引カテーテル、ピンセット等 | 0.5%グルコン酸クロルヘキシジン・エタノールまたは0.5%塩化ベンザルコニウム・エタノールに20分以上浸漬後、水洗。   |

### 〔環境消毒〕

|                  |  |
|------------------|--|
| 床                | 毎日清掃する。<br>0.1~0.5%両性界面活性剤(テゴ-51 <sup>®</sup> )を含ませ軽く絞ったモップで清拭。消毒前の掃き掃除は菌を浮遊させるので逆効果。  |
| ドアノブ、テーブル、ベッドサイド | 消毒用エタノール、0.1%塩化ベンザルコニウム・エタノール、あるいは0.5%グルコン酸クロルヘキシジン・エタノールで清拭。  |
| リネン類             | 毎日交換する。シーツ交換時にはとくに菌が飛散しやすいので注意する。消毒液は使用時ごとに調整する。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・温水(70℃以上)で洗浄後、すすぎの段階で0.01~0.05%次亜塩素酸ナトリウムに5分浸漬。</li> <li>・0.01%塩化ベンザルコニウムに1時間以上浸漬、水洗の後、通常の洗濯をする(血液や膿等が多量に付着している肌着・衣類は消毒前に十分水洗した後、消毒液に浸漬)。</li> <li>・マット等はエチレンオキサイドガス滅菌(特殊な設備が必要)。</li> </ul> |
| ベッドパン<br>採尿容器    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動殺菌洗浄器で殺菌、熱処理。</li> <li>・排泄物はその都度トイレに流し、容器は2%クレゾール石けん液、あるいは2%グルタラルに60分浸漬。</li> </ul>  |
| 病室(退院後)          | 2%グルタラルを含ませ軽く絞ったモップで清拭後、5~10分以上かけて乾燥し、一晚十分に換気する。消毒実施者は予防衣、手袋、マスク等を着用し、15分以内で作業を終了させるようにする。あるいは自動噴霧装置を使用する。   |
| 浴槽               | 0.5%両性界面活性剤で清拭後、温水で洗浄。   |

### 〔在宅療養患者の消毒〕

在宅療養患者でも基本的には同様の対策をとるが、菌の排出されている部位からの分泌物や排泄物の適切な処理、手洗いの徹底、通常のコソバを行ってれば心配ないので、過度の不安を抱かせないよう配慮することが大切である。

〔文献〕 浅利誠志：MRSA消毒・除菌と治療，最新医学社，1997。

山形大学病院薬剤部医薬品情報室：薬局 45(2)：807，1994。

小林寛伊：日本内科学会雑誌 81(10)：70，1992。

尾家重治ら：月刊薬事 33(12)：2549，1991。

神谷 晃ら：消毒剤の選び方と使用上の注意，薬業時報社，1992。

川名林治編：消毒剤Q & A，医薬ジャーナル社，1995。

向野賢治：日本医事新報 No 3815 109，1997。